

第2節 A

地域を概観するーヨーロッパの社会・文化ー

めあて

ヨーロッパの社会・文化の地域的な変化を明らかにしよう。

なぜ地理を学ぶのか

人々の生活は、すべて国を単位にして動いているわけではありません。ヨーロッパの地図を眺めていると、現代を形作る2つの波ー分裂と統合ーが分かります。

地名・国名・組織

バスク、北アイルランド、スロベニア、EC、EU

学習対象の地域



A 分裂する ヨーロッパの人々

ヨーロッパの社会・文化には、どのような変化が見られるか？一言で説明してみよう。

ヨーロッパの生活は、どこも同じに見えるかもしれませんが。しかしヨーロッパには、宗教や言語、生活様式などの文化的な背景を異にする人々が数多く生活しています。人々がお互いの違いを認め合わないと、そこに対立が生まれます。例えば、スペインのバスク地方、イギリスの北アイルランドでは、住民が自治を求めて政府に抵抗し、しばしば流血の惨事が起きました。かつてはユーゴスラビアとして1つにまとまっていた地域も、今ではスロベニアやクロアチアなどの6ヶ国に分かれています。これらの地域では、いまなお人々の対立が深刻です。

B 統合する ヨーロッパの人々

ヨーロッパの社会・文化には、どのような変化が見られるか？Aの変化との違いを、分かりやすく説明してみよう。

フランスや西ドイツなどの6ヶ国は、第二次世界大戦のあと繰り返し戦禍を交えないように、鉄鋼と石炭の利用を協同で監視する組織（ECS C）をつくりました。さらに関税をなくし、地域内の経済活動を活発にさせる組織（EEC）も設立しました。これらの組織が母体になって、1967年ヨーロッパ共同体（EC）が誕生します。ヨーロッパ共同体は後にヨーロッパ連合（EU）に発展し、人の移動や就労の自由化、共通通貨の導入、欧州憲法の制定などを段階的に実現してきました。当初6ヶ国だった加盟国は、25ヶ国にまで増えています。

情報にアクセス 外国の事件のあらましを知りたいときは、当時の新聞記事を読むといいでしょう。まずウェブページで事件を検索し、発生の日時を調べましょう。特定された日時を手がかりに、当時の新聞記事を探してみましょう。

- ・図書室には、古い新聞が保存されています。司書の先生に閲覧をお願いしよう。
- ・新聞の「縮刷版」もあります。直接手に取って、必要な箇所を探し、コピーを取ろう。
- ・外国の事件は、国際欄に載っています。国際欄は何ページかな？

▼ ヨーロッパの宗教



▼ 欧州議会(ストラスブール)

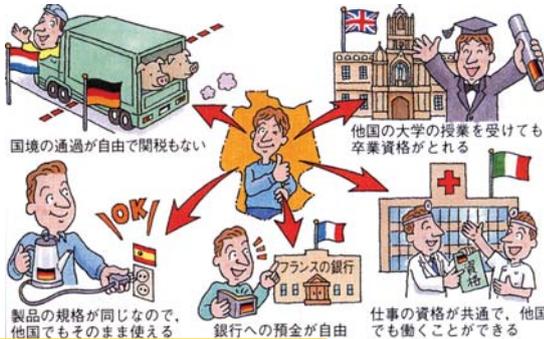


上左:この地図を読むとき注意すべきことは何か? 赤色の地域には、カトリック教徒しか住んでいないのだろうか?
 上中:ストラスブールの位置を地図帳で確認しなさい。なぜこの都市に欧州議会が置かれたのだろうか?

▼ ユーゴスラビアの国境変化



▼ EUの市民にできること



▼ 自由に通過できるフランス国境



1 ことばの意味を知ろう

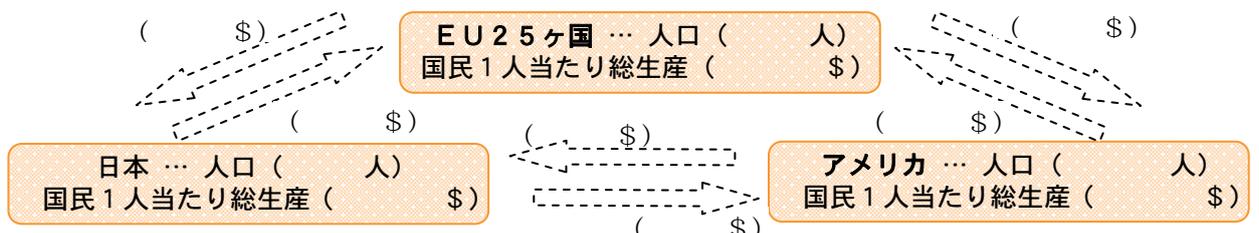
2 事実を調べて、整理しよう

- 1 次の国で多数の人々が信仰している宗教を調べなさい。イギリス、スペイン、ポーランド、ルーマニア
- 2 かつてのユーゴスラビアは、現在どのような国に分かれていますか、調べなさい。
- 3 EUの発展過程を下の表にまとめなさい。EUの各国を、加盟の時期ごとに色分けして白地図に表しなさい。どのような傾向が分かりますか。

組織	時期	出来事	(新しい) 加盟国	白地図上の色
E C	1968年	E Cの設立		赤
	1973年	3ヶ国加盟		オレンジ
	1981年, 1996年	1+2ヶ国加盟		ピンク
E U	1993年	3ヶ国加盟		青
	2004年	10ヶ国加盟		むらさき

3 事実の背景・本質を考えよう

4. バスク地方の紛争について、新聞記事で調べてみなさい。調べ方は、「情報にアクセス」を参考にしよう。
5. EUとアメリカと日本の関係を図に表しなさい。矢印は、貿易額を比較できるように太さを工夫しなさい。



第2節 B

地域を捉える概念を探求するー多様な心のより所ー

めあて

ヨーロッパの地域的な分裂の背景と、統合の目的を説明する概念を習得しよう。

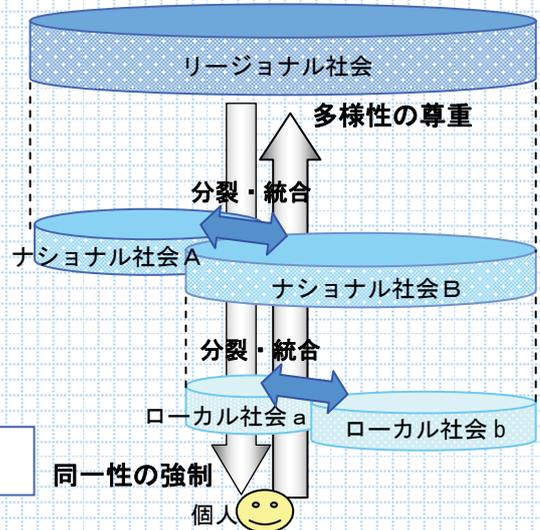
なぜ地理を学ぶのか

ヨーロッパには、国家を相対化する2つの現象が見られます。ヨーロッパを眺めていると、近代国家が直面する様々な課題が分かります。

概念

アイデンティティ、ローカリズム、リージョナリズム

政治の見方



A

国家に対する 帰属意識

私たちは、なぜ「〇〇の国民」という帰属意識をもつことができるのだろうか？

人は初めから、自分は「〇〇の国民（フランス国民）」という意識をもっているわけではありません。国民としての振る舞いと気持ちは、学校や軍隊で同じ言葉づかいや習慣を身につけたり、国家から様々な権利が与えられたりすることで、徐々につくられてゆきます。地域や階級で分断された人々を1つにまとめる過程では、多様性の尊重と同一性の押しつけという2つの現象が見られました。

B

ローカリズム

なぜ国家を分裂させる動きが見られるのだろうか？ヨーロッパでは、どこでそういう現象が起きているのか？

国家は、対等な権利をもつ国民によって築かれます。しかし現実には、政治参加の機会を奪われたり、所得や地位で低い水準に置かれたままの人々もいます。しばしば国家の中央に対して辺境の人々が、そういう状況にありました。辺境の人々は、対等な地位や独立した地位を求めて、地方の自立性を主張するようになります。このような動きをローカリズムといいます。

C

リージョナリズム

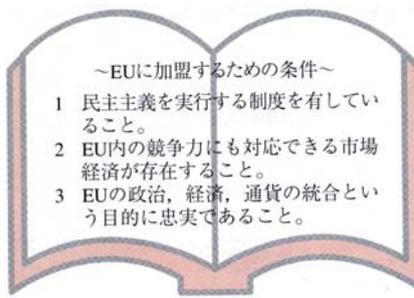
なぜ国家を統合させる動きが見られるのだろうか？ヨーロッパでは、どこが統合に積極的で、どこが消極的か？

一方で、隣接する国家が協力し、地域単位で1つのまとまりをつくる動きも見られます。これをリージョナリズムといいます。国境を越えて国家がまとまることで、貿易の壁は小さくなり、市場は広がり、経済を活発にすることができます。紛争の解決はもちろん、酸性雨などの環境問題にも協力して取り組むことができます。しかし、自国の地位が弱まることに危機感をいだく国は、連携に消極的になりがちです。

▼ バスク独立要求の落書き



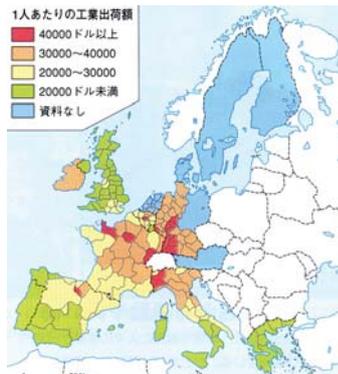
▼ EUの加盟条件



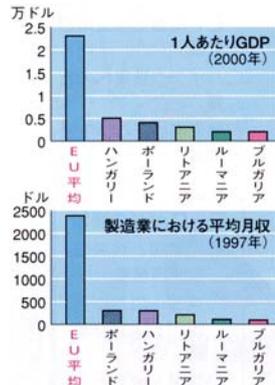
ノルウェーの加盟拒否の意思 ▼



▼ EU各地の工業出荷額



▼ ヨーロッパの経済格差



上左：ETA (バスク祖国と自由)による落書き。スペインとフランス国境で分断されたバスク地方の実態を表現している。
 下左：バスク地方の工業力に注目しなさい。
 下中：とくに経済水準の低い地域はどこか。これらの地域が加盟すると、どのような課題が予想されるだろう？

1 ことばの意味を知ろう

2 事実を調べて、整理しよう

- 次の言葉の意味を説明しなさい。国民意識, ローカリズム, リージョナリズム
- 次の出来事をローカリズム(L)のリージョナリズム(R)の動きに分類しなさい。これらの出来事から2つ選んで、分裂の背景や統合の目的を調べなさい。

出来事 (位置も調べよう)	動き	分裂の背景・統合の目的
欧州憲法の制定	L・R	
ユーゴスラビア紛争	L・R	
パスポートの統一	L・R	
チェコとスロバキアの分離	L・R	
ユーロの使用	L・R	

3 事実の背景・本質を考えよう

バスクの人たちには、是非ともスペインにとどまって欲しい。なぜならば...

私たちバスク人に、もっと自治を認めてほしい。なぜならば...



- なぜバスク地方では、長期にわたって紛争が解決できないのだろう。左の吹き出しに続くことばを入れなさい。
- ヨーロッパでEUに加盟していないのはどこか。なぜ加盟しないのか。理由を説明しなさい。
- EUの加盟国が増えることのメリットとデメリットは何か。予想しなさい。
- 私たち人間は、国家と地方・国際的な社会以外に、どういう社会に帰属意識をもっているだろう。

第2節 C

概念を活用して事例研究を行うーイギリスー

めあて

分裂と統合の動きが同時に見いだすことのできる事例としてイギリスに注目し、社会・文化から見たイギリスの地域的特色を明らかにしよう。

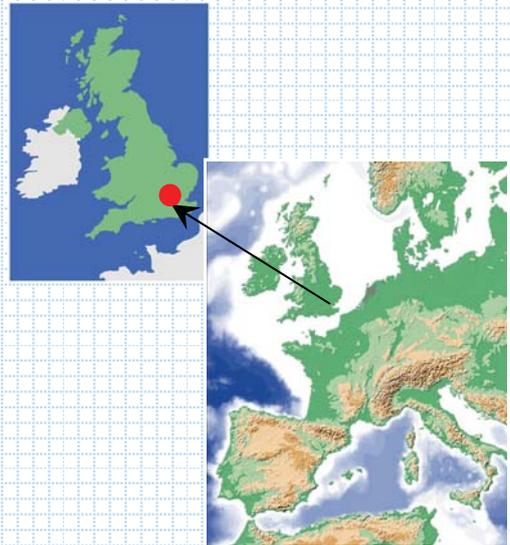
なぜ地理を学ぶのか

イギリスはヨーロッパの中心国です。同国は、アイルランドやヨーロッパとの関係で苦勞し、将来のあり方を模索している地域として注目されます。

注目すべき事象・出来事

ナショナリスト、ユニオニスト、ユーロ、欧州議会

学習対象の地域



A 北アイルランドの独立運動

イギリスには、どのようなローカリズムの動きが見られるか？なぜ紛争の解決が難しいのか？

北アイルランドは、イギリスを構成する1地域です。北アイルランドでは、イギリスから独立してアイルランド全体で1つになろうとするナショナリストと、経済的利益を追求してイギリスとの連合を維持しようとするユニオニストの間で、意見が対立してきました。北アイルランドには、イギリス下院の議席のうち、人口に応じて16議席が割り当てられています。しかし、ナショナリストが支持する政党は、たとえ議席を獲得しても議員を送っていません。アイルランドだけで構成される独立政府を、正統な政府と考えているからです。両者の対立は、しばしば過激なテロ事件にまで発展しました。1996年、地域の平和に向けてベルファスト合意が結ばれましたが、依然として緊張が続いています。

B ヨーロッパ統合への道

イギリスには、どのようなリージョナリズムの動きが見られるか？イギリスはこれに積極的と言えるか？

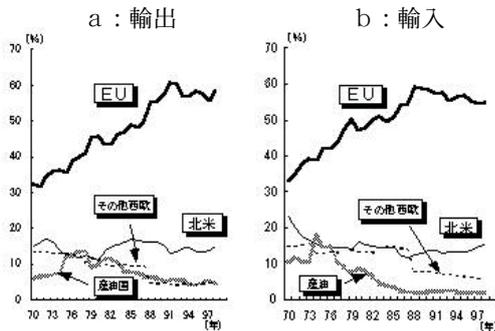
イギリスは、EECに加盟していないデンマークやノルウェーとともに、ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA)を設立しました。しかし、かつての植民地が独立を果たし、ヨーロッパとの経済的つながりを優先せざるをえなくなるとEFTAを脱退、1973年にはECに加盟しました。イギリスはECを発展させたEUにも引き続き加盟します。しかし、国内の経済状況に応じて自立的に対応できるように、ヨーロッパの共通通貨ユーロの採用は見送りました。一方、欧州議会には、加盟国のなかで2番目に多い議員を送っています。選出されたイギリスの議員は、同じ政策を掲げるヨーロッパ各国の政党と協力関係を結んでいます。

▼ ベルファストの兵士 ▼ ユーロ紙幣, ポンド紙幣, および北アイルランド独自の紙幣



上左：ベルファストのカトリック地区で治安を監視するイギリス軍の兵士。
 上中：北アイルランドでは、現地の4銀行にも紙幣の発行が認められている。写真はアルスター銀行発行の紙幣。北アイルランドではポンドを含めて5種類の紙幣が通用する。
 下右：EU内に生産性の高い国と低い国があると、どんな摩擦が起こるだろう？

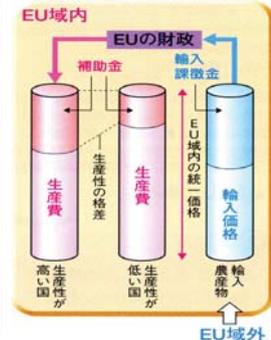
▼ イギリスの貿易相手国の変化



▼ 通貨統合に反対するパブ



▼ EUの共通関税



1 ことばの意味を知ろう

1 次の言葉の意味を説明しなさい。
 ナショナリスト, ユニオニスト, ユーロ, 欧州議会

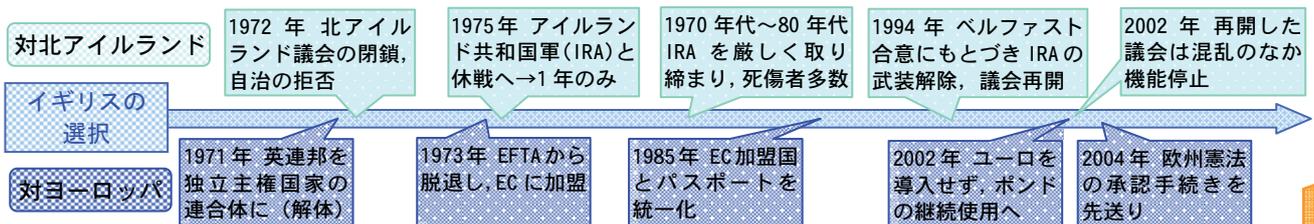
2 事実を調べて、比較しよう

2 アイルランドとイギリスの関係を、下の表を使って説明しなさい。どのような共通点と相違点を見出すことができますか。

比較の視点	イギリス	アイルランド
政治のしくみ		
主要な産業と所得水準		
主要な言語と宗教		
軍事力		

3 事実の背景・本質を考えよう

3 北アイルランドでは、なぜテロが繰り返されるのか。どうして解決が難しいのか。理由を説明しなさい。
 4 イギリスとアイルランド・ヨーロッパの関係はどうなっているか。下のフローチャートを参考に説明しなさい。
 5 日本には、イギリスの北アイルランドに相当する地域があるか。アジア・太平洋地域は、ヨーロッパに比べて統合の程度はどうか。あなたの解釈を示しなさい。



1章 まとめ

ヨーロッパを振りかえる

1つまたは2つ課題を決めて、答えを追求しよう。とくに

- ヨーロッパと日本のつながりに注目して…
- ヨーロッパが直面している状況・課題と、日本が直面している状況・課題の似ているところ・違うところに注目して…

①地域に関する問いを決める

②教科書の内容を参考に予想する

③予想を裏付ける事実を集める

④図表を使って結論を表現する



A ヨーロッパとの つながり

ヨーロッパと日本の結びつきまたは関係を説明しなさい。歴史的分野の教科書を参考にしなさい。

日本とヨーロッパの接点を求めて～歴史編～

- 1 室町時代から安土桃山時代にかけてヨーロッパから日本にもたらされたものを挙げてみよう。それらは、その後の歴史にどのような影響を与えただろうか。
- 2 江戸時代、日本はヨーロッパと完全に断絶していたのだろうか？交流の証拠になるものを探そう。
- 3 明治時代から大正時代にかけて多くの若者がヨーロッパに渡りました。彼ら彼女らはどうのことを学び、日本にどのような知識や制度、考え方を広めたでしょう。
- 4 第一次世界大戦の戦場は、おもにヨーロッパでしたが、日本も連合国の一員としてこの戦争に参戦しました。日本は第一次世界大戦にどのように関わったでしょう。また、戦争からどのような影響を受けたでしょう。

B ヨーロッパが 示唆すること

ヨーロッパの実態は、日本が直面している課題とその解決にどのような示唆を与えてくれるか？公民的分野の教科書を参考にしなさい。

日本とヨーロッパの接点を求めて～現代編～

- 5 日本の政治や外交の特色は何だろう。ヨーロッパとの比較で考えなさい。
- 6 日本の天皇制の特色や課題は何だろう。ヨーロッパの事例を参考に考えなさい。
- 7 アイヌの人々の願いや主張を調べなさい。なぜそういう主張をしているのか。その理由を、ヨーロッパの学習を踏まえてまとめなさい。
- 8 ヨーロッパの酸性雨問題への対応策を調べなさい。どういう組織がどんな取り組みを行っているか。日本の酸性雨の対応策で、とくに参考になる点はどういうところか。